

【特集】

レジ袋、いりません。

— プラごみ問題を考える —

7月1日、全国一斉にプラスチック製買い物袋、いわゆるレジ袋の有料化がスタートしました。これは海洋プラスチックごみ問題や地球温暖化などの解決に向けた取り組みですが、そもそもプラスチックごみは環境にどのような影響を与えているのでしょうか。今号では、プラスチックごみが環境に与えている悪影響や環境を守るために一人一人ができることを紹介します。

7月1日 全国一斉にレジ袋有料化がスタート

【対象者】プラスチック製買い物袋を扱う小売業を営む全ての事業者
【対象となる買い物袋】購入した商品を持ち運ぶために用いる、持ち

手のついたプラスチック製のもの
【問い合わせ】
▶事業者向け＝☎0570(000)930
▶消費者向け＝☎0570(080)180



▲レジ袋有料化に関する経済産業省のホームページへ

しかし、適切に処理されず、環境中に流れ出てしまうプラスチックごみも少なくありません。流出し、河川から海にたどり着いたプラスチックごみは、「海洋プラスチックごみ」と呼ばれ地球規模の環境問題になっています。

手軽な分、簡単に捨てられる面もあるプラスチック。また、丈夫とはいえ、プラスチック製品もいざれ役目を終える時期がきます。市では、不要になったプラスチック製品は、通常、可燃ごみか資源ごみのいずれかの方法で回収・処理されます。

海へ流出するプラスチック

安価な素材で加工しやすく、耐水性もあり軽くて丈夫。手軽さゆえに、多くの物に製造・使用されているほか、ビニールや発泡スチロールなどの包装や梱包、緩衝材などにも使われ、私たちの暮らしに広く普及しています。

プラスチックは、レジ袋やペットボトル、食品容器、浴室用品、消しゴムなどの文房具、家電製品の部品、スポーツ用品、洋服、農業資材など、さまざまな用途で私たちの暮らしを支えています。

プラスチックってどんなもの